

ある冒険者たちの散華



プロローグ 1

ある結末の前夜



...



まずゴブリンに
捕まった女の子は
ポッコポッコに
痛めつけられるらしいわ

逃げたり抵抗したり
できないようにね：



死ぬまでゴブリンの
子供を産むだけの
家畜にされるんだってさ！



そして動けなくなったところで
こんな風に服を剥かれて
素っ裸にされて：

ちよ..
ちよつと！



ギョッ
ギョッ
こわい♡

馬鹿！
どきどきすりつけて...

ゴメンゴメン：
てっとり早く親睦を深めるには
肌と肌の触れ合いが
一番かな〜って



それにしても
なんなのよ
さっきの話は
気持ちの悪い…



でしょ？

妙に話が生々しくてさ



それから村のはずれで
実際にゴブリンに
会ってみてビックリ！



だからゴブリンには
絶対近づくんじやないぞなんて
子供の頃は
さんざん言われてたんだけど

だって想像してたより
ずっと小さくて貧相で…



いっしょにいたあいつが
棒切れで追いかけるくらい
弱かったんだから



ゴブリンなんかには
やられちゃうなんて

天地がひっくり返るような事が
あったってありえないわよ



なんであんなのを
大人はみんな怖がるんだらうって
子供心におもったわ

父さんはどんな相手でも
油断をしちゃいけないって
よく言ってたけど



それはそうと
困ったわね

賢者の学院を出た
エリート魔導士様の
初陣だったのに
ギルドに転がってるのは
ゴブリン退治とか
しょぼい依頼ばかりなんて



冒険者としては
私も駆け出しの
白磁等級な訳だし

本格的な実戦を前に
ザコで肩慣らしをしておくのも
悪くない：



かまわないわよ
初仕事はゴブリンでも

本当？

ゴブリンといえは賢者の学院じゃ落ちこぼれの劣等生達がそうよばれていたわ。

無能で怠惰で…

そのくせ優秀な生徒へ妬み嫉みから嫌がらせばかりする害悪…

どれだけ目ざわりな存在でもさすがに学院の中で連中を焼き払う事はできなかつたけど

卒業した今なら存分に自分の力を行使する事ができる…

身の程知らずに振る舞う事がどんなに危険で愚かな事なのか…

弱者は思い知るべきなのよ

その身をもつてね…

じゃあ



あらためまして
よろしく!
……ってあれ?

貴方達とは
あくまで暫定的に
組むだけよ



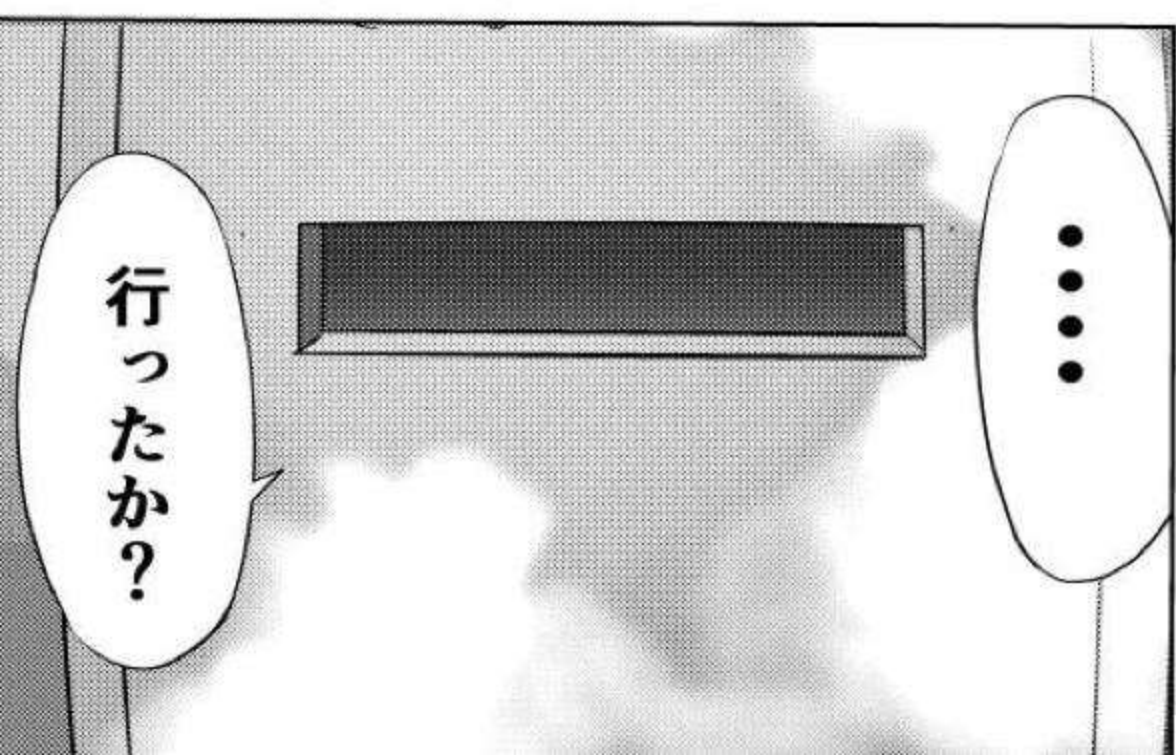
たーのもしい♪

じゃあとりあえず明日は
ゴブリン退治で決まりね!



アハハ:
短い付き合いに
ならないように
頑張ろーっと

……



行ったか?

……



私の仲間として
ふさわしい水準じゃ
なかったら

明日が
最初で最後かもね



しかしあいつも立派になったなあ

それにあの魔導士のコもなかなかか

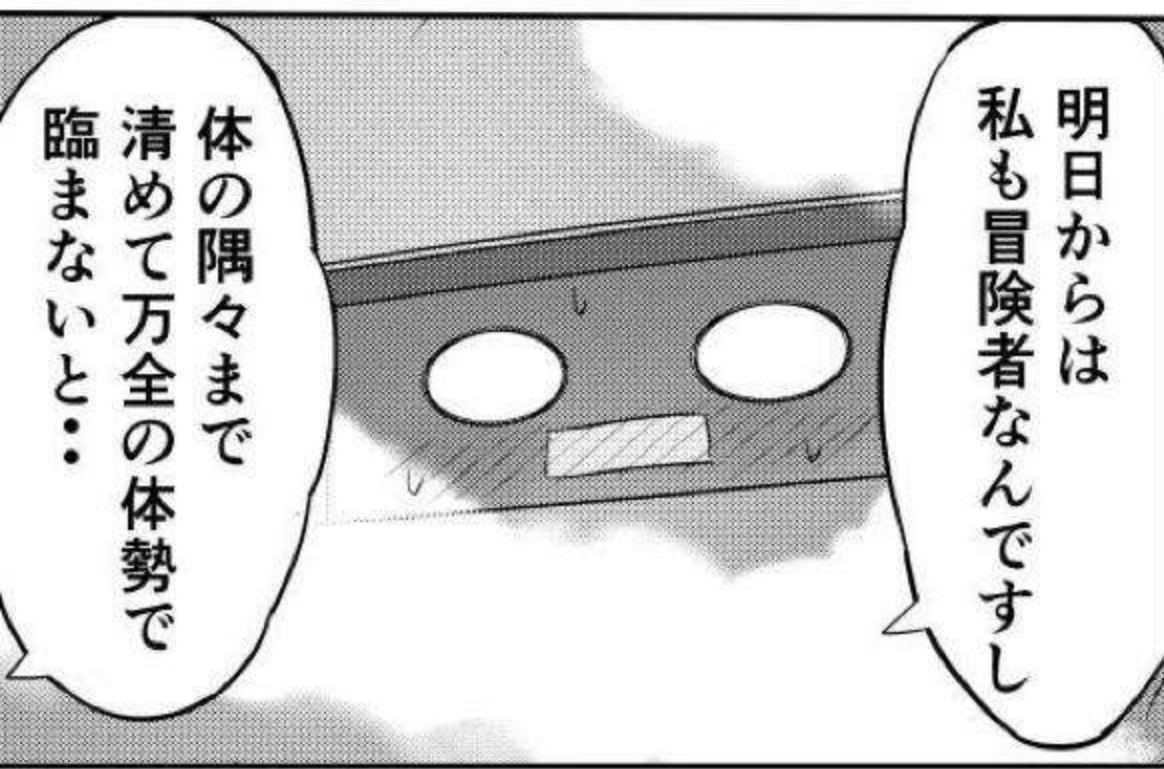


まいったぜ：こっち女湯だったのか



こりや幸先いいぜまさに両手に花

うわあ



明日からは私も冒険者なんですし

体の隅々まで清めて万全の体勢で臨まないとは



すごいです

こんな立派な浴槽があるなんて



大丈夫かなオレ

こしもあつ

なんだか一生分の運を使ってる気がする

END

プロローグ 2

深淵を覗く時：
・



なんだろうなこれ

おどろき

さあ？



ぐへへっ
お客さんだ：

いいねえ
粒ぞろいだぜエ：

邪郎は
ドケミ！



えーっ？

他の者たちは
好きにして構わん

ブア



お前たち：
左端の神官風の女は
生娘のまま手に入れろ

わしが儀式に使う



いいな返事は？

へー…

よしいけ！



どうする？
親父のやつは
ああ言ってるけど…

まあ
いいんじゃないか？
他にデカパイの上玉が
二人もいるんだし…

どうせ親父が飽きたら
すぐ俺たちに
まわってくるんだろ



あふれる子種で
溺れさせてやるぜえ！

穴とゆう穴に
ぶち込みまくって



お前赤髪と黒髪
どっちをやるよ？

ギヤハハ
そんなもんどっちもやるに
決まってんでしようが！



…まあな

あんたが出張るほどの相手には見えなかったが？



…まったく誰に似たんだか：

ん？



だがたまには用心棒らしい事もせんと体がなまる：



それにあの黒髪：

♡



チビたちに
すぐやられるようでは
俺の相手はつとまらんさ



どうした？

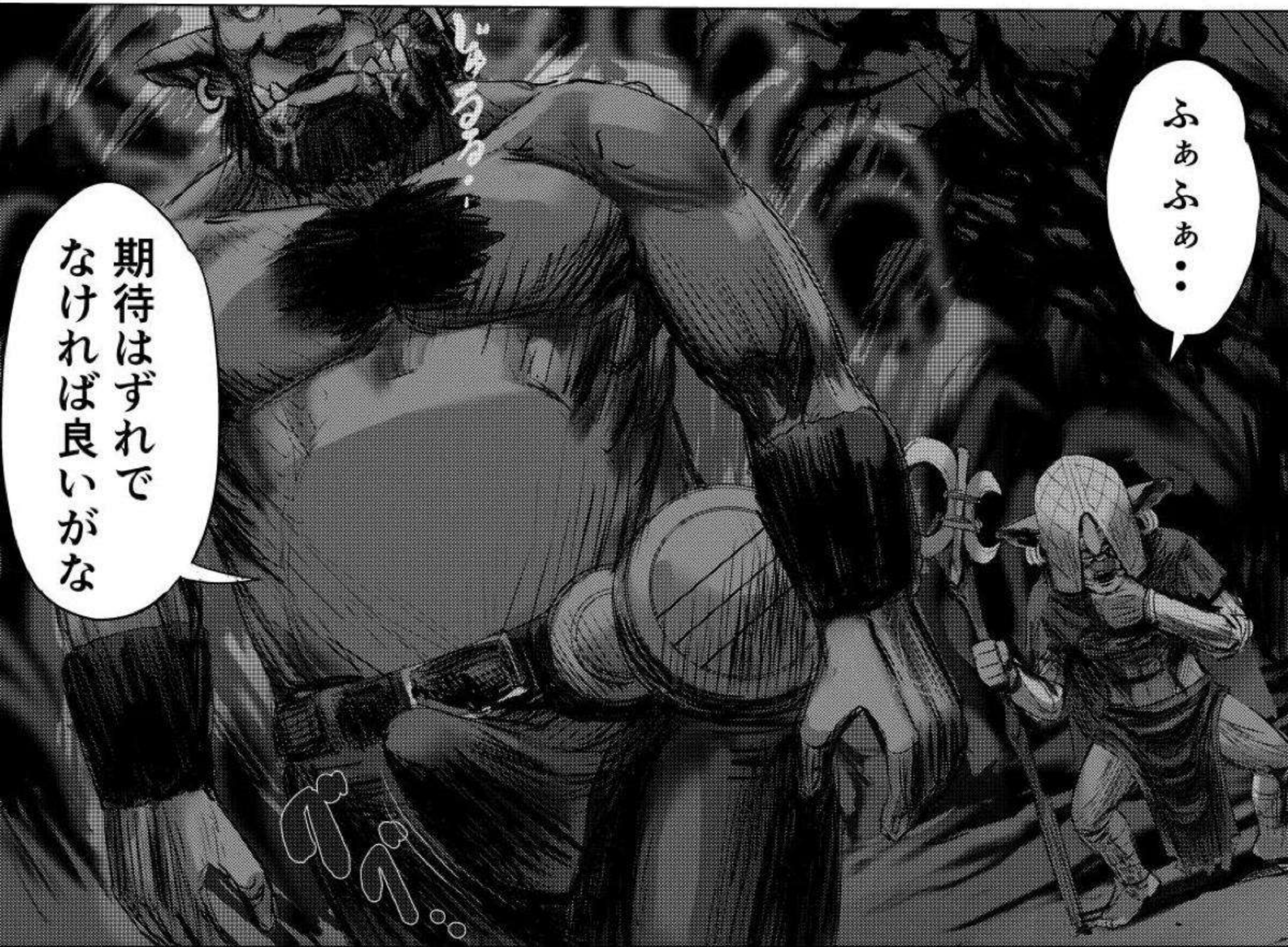
…いや

頑丈な子を
産みそうだと
思ってたな



めずらしく
食指が動いたか

ならば早く行かないと
息子どもに
先をこされてしまうぞ？



ふあふあ…

期待はずれで
なければ良いがな

いなるる…

本編
1

女武闘家散華



子供の頃からの
約束だろ？

お前がおじさんから
受け継いだ武術

あんな何もない村で
腐らせとくには惜しいぜ



しっかし

まさか本当に
あんとと冒険する日が
来るとはね〜



何だ!?

後ろの様子が…



そりゃあまあ
そうだけどもさ…

それにただ戦力に
したいってだけで
お前を誘ってたわけじゃ
ないんだぜ…



えっ？

俺さ…実は
昔からずつと…

おっ
返せ



あの馬鹿……

さっき
何て言おうと
してたんだろ……



実力足らずで
危なっかしくて

だけど夢に向かって
純粹で前向きで……

そんなあいつと
一緒にいるうちに

いつの間にかあいつの夢を
叶える事が
あたしの夢になってた



それが
こんなところ……



どんな困難だって
二人で力を合わせれば
乗り越えられる



そしていつか
故郷かどこかで落ち着いたら
あいつと一緒に……
なんて……

こんなやつらに...





うぐっ

ぐえっ！

があっ！！



グググ

ウギウギ！！

じわっ...



よくもあいつを...

絶対に許さな...



駄目！
体が動かない！



うう...



ウギウギ





ああああっ!!

ぐっ!

ぐっ!

.....!!



ぎやあああつ!!

ごめんなさい...

ごめんなさい...



やめろっ!

あ

あ

そこはお前らんんかが
触れていい
ところじゃない!



そこは...

あいつの為に...





駄目だ…

体中が痛くて
何もできない…



舌を噛み切る事も
できない…



生兵法は
大けがのもとという



あ

ほわっ



どうして…
こんな事に…

ズキ

ズキ

えーなにー？

父さん
なんか言ったー？

お前が
あの坊主に影響されて
冒険に憧れる気持ちは
わからないでもないが

筋よく奥義を
一通り使えるように
なったとはいえ
まだまだ未熟：



驕ってはならない
技とは一生をかけて
磨いてゆくものなのだから

ハイハイ
わかってるわよ
もう何度も
聞きましたってば



お前が私の武術を
受け継ぎたいと
言ってきた時は
嬉しい反面
複雑な気持ちもあった



力を手にすれば
使いたくなるものだ
大切な娘が危険な道を
好んで進むのではないかと



お前は母さんに似て
美しくなった

そうして料理などしていれば
きっと良い縁にも恵まれ

女として幸せな人生を...

父さん
私はそんな
つまらない生き方...

そうだったな
それについては
もう何もいうまい

ただ
覚えておいてくれ

私と母さんの願いは
お前の幸せただ一つ

くれぐれも無茶をせず
自分を大切にするんだぞ

父さん...
やっぱり私
冒険者になる

いやっ!

どうか
見守っていて

いやいや
いやいや...

いやあああああ!!



出された:
ゴブリンの...

ウソ...



!

!

!





くぼ

あーっ

やめて...

びゅん



悪い夢なら

しこ



びゅん

もうやめて...



びゅん

びゅん

びゅん

びゅん



?



早く覚めて...

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん



パン



ト

ン



痛っ！



ひっ…!?

おあ



ぽん 刺刺

痛いっ！



ぐん

あ…足が…

もぞもぞ。。





わあ!!

ッソ

ずんずん

待?

ヤ

ぐんぐん

あがが

あう

ひん



考えられない...

ひびく



もう何も...



あーあーあー



も...も...

アソコの感覚しか...



ぬちゅ
ちゅにゅ
ちゅにゅ



ちゅにゅ
ちゅにゅ



ああ
あつ

あ
あはっ

あれ
なんで

ゴブリンの...なのに...



ぐ
い





次回

女魔法使い散華